

令和7年度シラバス

文化学園大学保育専門学校

科目名					授業の種類	授業担当者
子ども家庭支援論					講義	栗原博士
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修	
2	2	30	15	後期	幼免：選択	保育士：必修
[授業の目的・ねらい]						
保育者として必要な、教育、保育における家庭支援の知識を習得する。 事例検討やロールプレイを通して、教育、保育における家庭支援の実践力を養う。						
[授業全体の内容と概要]						
子どもの保育だけに対する対応だけではなく、保護者の子育ての悩みなどの相談にも対応が迫られることが増えてきた。そのため、教育、保育における家庭支援について、その基本となる理論と方法および心構えを学ぶ。また、乳幼児への支援を必要とする家庭を理解するために必要なスキルを学ぶ。						
[受講上の注意事項]						
・グループごとにPC (Word、Excel、PowerPointなど)を使い、テキストをまとめたり、意見をまとめたり、発表したりする。 ・毎回、事例検討やロールプレイを行うため、積極的に取り組むこと。						
[使用テキスト] 「子ども家庭支援論 演習ブック」(ミネルヴァ書房)			[評価基準] 定期試験、授業中の発表・レポート、 グループワークへの参加・態度			
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]						
回	項 目		授 業 内 容			
1	オリエンテーション／ 子ども家庭支援の意義		家庭の役割／現代の家庭について			
2	子ども家庭支援の目的と機能		子ども家庭支援とは			
3	保育の専門性を生かした子ども家庭支援		専門性を生かして子ども家庭支援を行うために			
4	子どもの育ちの喜びの共有		保護者と子どもの育ちを共有するためには			
5	子育てを自ら実践する力の向上に役立つ支援		保護者の子育て力を支えるために			
6	保育士に求められる基本的態度		保護者との信頼関係を築くには			
7	家庭状況に応じた支援		子どもの発達段階別の家庭支援			
8	地域資源の活用と連携		地域や専門機関との連携			
9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源／子育て支援施策		地域の社会資源を知ろう／児童福祉施策を取り巻く変化について			
10	子ども家庭支援の内容と対象		それぞれの家庭に応じた支援を考える			
11	保育所等を使う家庭への支援		保護者との情報共有・連携			
12	地域の子育て家庭への支援		子育て支援事業について			
13	要保護児童等および家庭に対する支援		要保護児童等について／社会資源を利用した支援について			
14	子ども家庭支援に関する現状と課題		子育て家庭への支援における現状と課題			
15	まとめと試験					
実務教員としての経歴						
実務経験と授業の関連						